



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第14号(2008年6月6日)

「『スパークスの投資仮説』」

スパークスでは事前にしっかりとした投資仮説を立てた上で新たな投資戦略を考え、実行しています。では、どのように投資仮説が出来るのかというと、それは日々行っている企業訪問や経営者へのインタビューを通じて、今後経済、社会、そして株式市場がどのように動いていくのか、といったことを考え仮説を立てるのです。

スパークスは、1989年の創業時より、「政府・官僚主導から市場主導の社会経済システムへの移行」という大きな投資仮説を掲げています。これは一言で言うと、日本は、高度経済成長を遂げるために国が企業を保護、規制した戦後の経済の仕組みから、今後は徐々に消費者や株主が主役となる資本主義経済へ変化を遂げていこう、という考えです。このような大きな時代の変化を捉えた上で、最適な投資戦略を考えて実行するというのがスパークスの投資の原則です。

この投資仮説の下、創業時、中小型株式投資戦略をスタートしましたが、これは規制緩和や産業構造の変化を新たなビジネスチャンスと捉えて、機動的に行動することができるのは、大企業よりも中小企業やベンチャー企業であろうと考えたからです。

その後、90年代後半から株式市場において「勝ち組・負け組の選別」いわゆる二極化現象が見られるようになったことに着目し、いい企業を買って悪い企業を空売りするロング・ショート投資戦略をスタートしています。

さらに“負け組”の中でも、次の成長機会を捉えることのできる企業に投資する戦略や90年代終盤には大型株の市場においても勝ち組・負け組の選別が見られるようになったと考え、全ての上場企業を投資対象とする戦略をスタートしています。また昨今では、持ち合い株の解消により株主重視経営が浸透する中で企業価値を高めていく戦略を開始するなど、常に時代に一歩先駆けて投資戦略を考え実行してきました。

して、2008年、今後はアジアを中心とした新興国の経済成長をビジネスチャンスと捉え、そのような国で活躍する日本企業が、新たな国際優良企業になるだろうという仮説を構築し、この仮説をもとに投資を進めて参ります。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。